

青柳

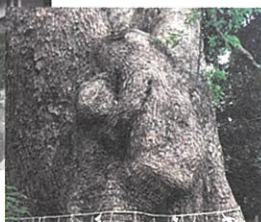
(あおやぎ)

5つの集落、
 神田、八幡、石瓦、小路、岳越が五所八幡宮を中心に、
 今もなお歴史や伝統を受け継ぎながら、
 脈々とその文化が受け継がれ息づいている。
 それぞれの集落がそれぞれの神を持ち、
 それぞれの文化を擁す、
 古賀の中でも非常に稀な貴重な地域、青柳。
 昔から続くその町並みは、
 歴史が持つ力強さを体感させてくれる。
 10月4、5日の放生会は、
 日本特有の美しさを体感できる事、間違いなし。



あおやぎほうじょうえ
青柳放生会

市内の中でもかなり長いといわれる五所八幡宮の参道にお店が立ち並び、森の中にそびえ立つお社には圧倒されます。2年に一度行われる御神幸(お下り)のときは、稚児行列も行われます。



ごしよはちまんぐらう
D 五所八幡宮

五所八幡宮は、神功皇后・応神天皇・保食神・玉依姫命・墨江三前神の五柱の神々をお祀りし「武運長久・五穀豊穰・無病息災・縁結び・安産・交通航海安全・学業祈願」をその神徳とされ、初詣・受験シーズン・七五三・放生会などの節目に地域の住民の厚い崇敬をあつめています。千年以上の古い歴史を持つことは確かですが、戦国時代などの兵火で何度も社殿を焼失し、記録のほとんどが失われてしまいました。近年「ムーミンの木のある神社」として脚光を浴びています。



いろひめ はか
A 色姫の墓

市指定文化財。宗像氏貞の実妹。宗像(毛利方)と立花(大友方)の戦いで和睦した宗像氏貞が、人質として立花道雪に送ったといわれ、後に道雪の側室となる。ときに色姫25歳、道雪57歳。色姫は身体が弱く、肌は色白で透き通るほどだったといわれている。1584年3月24日(享年39歳)病氣・自殺・心中により亡くなったとの説があるが、色姫にまつわる話は数多くある。



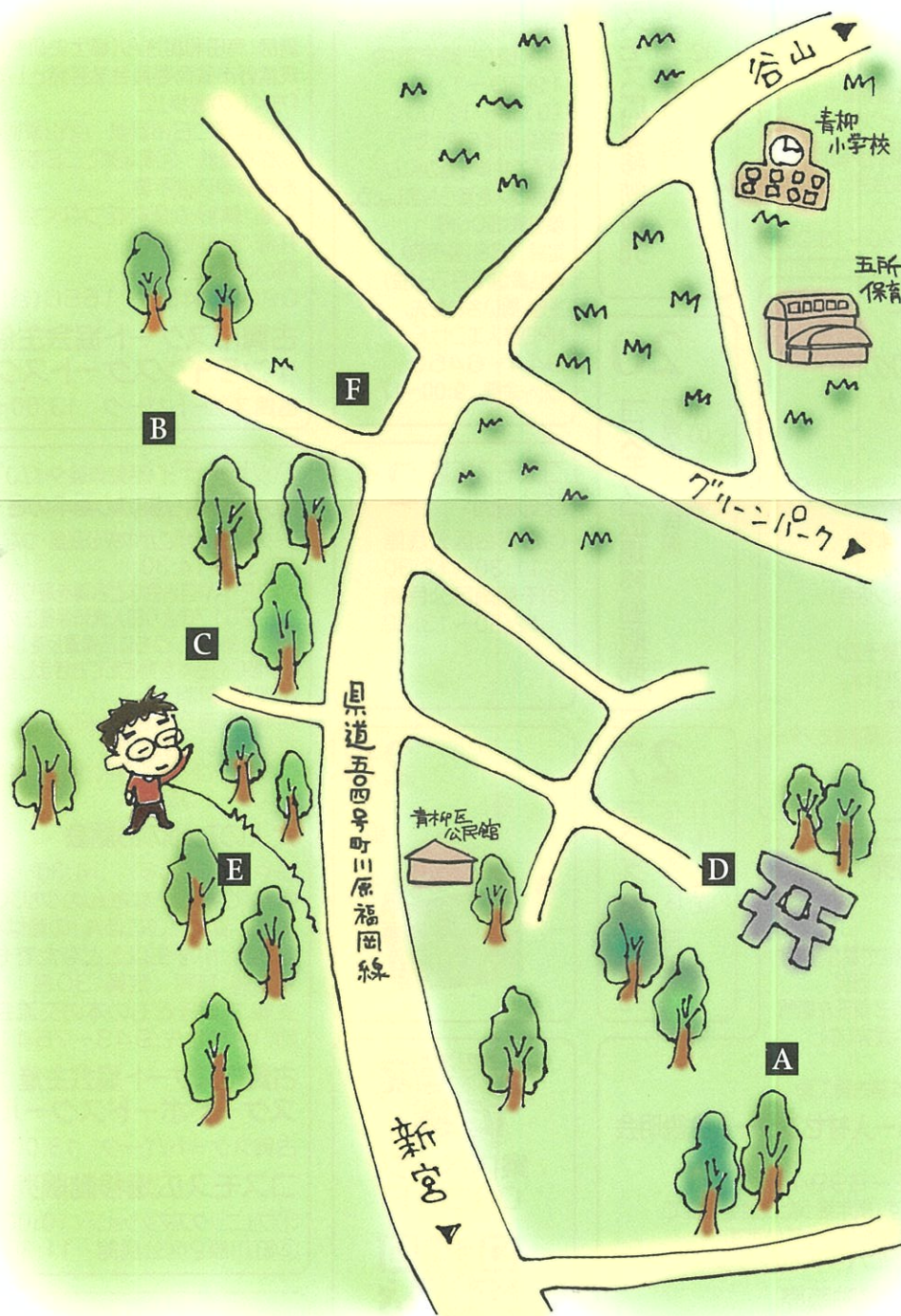
かんけい はかひ の だ わかさ はか
B 勘慶さまの墓碑(野田若狭の墓)

立花道雪の家臣で、色姫の警護や世話にあたったといわれ医者でもあった野田若狭の墓は青柳神田にあります。1583年3月14日に亡くなったと記されているが、一方で色姫と心中したともいわれている。勘慶さまの墓碑は、実は旧立花城ではなく色姫の墓の方を向いているとの説もある。



だいにちによらいざそう
C 大日如来座像

市指定文化財。青柳の寺浦の大日堂に祀られ、頭部と軀内に墨書銘があり、文明7年(1475年:室町時代)などの文字が残されている。造立から500年以上もたった今日、このような上品で宮廷風の仏像を拝することが出来るのは、数回にわたり修理・修復が行われてきたからで、いかにこの地が長い間、厚い信仰心とともに生きてきたかが伺える。9代目運慶の作とも、9代目運慶の弟子の作とも、双方の合作とも考えられるが、真実はいまだ定かではない。



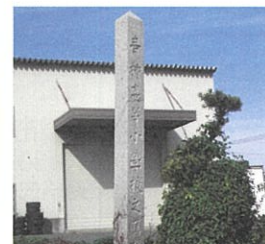
なごまつ
夏越し祭り

五所八幡宮で、毎年7月31日18時半から輪越し神事が行われ、無病息災を祈って直径2メートル以上の輪をくぐってお参りします。400年余り続く伝統的な祭りで、参道の両脇には300本を超える竹筒にろうそくの火が灯され、幻想的な雰囲気をかもし出します。お参りを終えた参拝客は、くぐった輪の茅(ちがや)を1本抜いて持ち帰り、先端をくると結んで魔除けとして玄関に飾ります。古賀神社や小山田斎宮などでも行われている。



たけこしやま
E 岳越山

標高118.9mの小さな山ではあるが、平野部に位置し、その眺望は絶景。特に桜の季節は、お墨付き。その昔、山伏の修行場であったそうです。



あおやぎじんじょう
F 青柳尋常高等小学校跡

糟屋郡内でも珍しい高等小学校(明治20年開校)。当時は広く糟屋郡内から児童・生徒が通っていたそうです。